

公民館通信



2017年
2・3月号
No.270

たのしいまち

編集：たのしいまち編集委員

発行：多摩市立永山公民館 ☎206-0025 多摩市永山 1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003
多摩市立関戸公民館 ☎206-0011 多摩市関戸 4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491



ひと
と
こ
ろ
の
こ
ろ
な
こ
と
を
つ
な
げ
て
い
く
こ
と
を
つ
な
げ
て
い
く

障がいある方も
ともに豊かに

いつも着用しているポケットに
つばいの黒ベストは、「出勤服」
と呼ぶそうだ。

パソコンボランティア多摩 代表 長瀬 敏雄 さん

「いろいろやって来ちゃった。」
—そう言いながら、テーブルに
並べた4枚の名刺。

- ・男性ボランティア会議
- ・多摩市要約筆記サークル
- ・パソコンボランティア多摩
- ・多摩めかいの会

それらを見て驚いた。あちこちの催し物で子どもたちと一緒に竹とんぼ作りや昔遊び。聴覚障がいを持つ方のため、話の要点をまとめ文章化する要約筆記と、コミュニケーションツールとしてのパソコン講座。多摩地域伝統の竹製品「目籠めかい」の編み方講座。活動が大変多岐に渡っていて、忙しい毎日が容易に想像できた。

生まれはS16年、3人兄弟の末っ子として。太平洋戦争に突入する2日前に東京で生まれたが戦況に伴い岡山へ疎開、小1まで暮らした。東京帰ってからサイゴン沖で戦死した父に代わり、懸命に働く母を見て育つ。食べるのに精一杯だったという。就職は、府中の電子機器関連会社。S45年結婚。翌年に多摩市永山に転入、二人の男の子に恵まれた。

ある時、職場に聴覚障がいを持つ部下が配置された。当時は、各人がパソコンを持つ時代ではなかったが、コミュニケーションを図るため社内LANを要望した。部署全員がパソコンを使えるようになると、先の部下の仕事上の障害がほぼなくなつたばかりか、大変優秀な人材と分かった。要約筆記の存在も、その時に知つたそうだ。

様々な活動のきっかけは、定年退職したH14年、手話サークルに入つたこと。同年、男性ボランティア会議、要約筆記サークルのメンバーにもなった。当時手書きが主流だった入力を徐々にパソコンに変え、全国要約筆記問題研究会では、プラネタリウムに字幕付けをした。H19年、障がいを持つ方々の力になりたいと、パソコンボランティア多摩を結成し代表に就く。ボランティア養成講座も行っている。仲間を大々募集中。障がいを持つ方に寄り添う熱い心はどこからう？「兄貴の…病氣かな」—そう答えた。2020年に『多摩めかいサミット』を開催するのが今の夢だ。